

令和8年度
石狩浜海浜植物保護センター事業計画

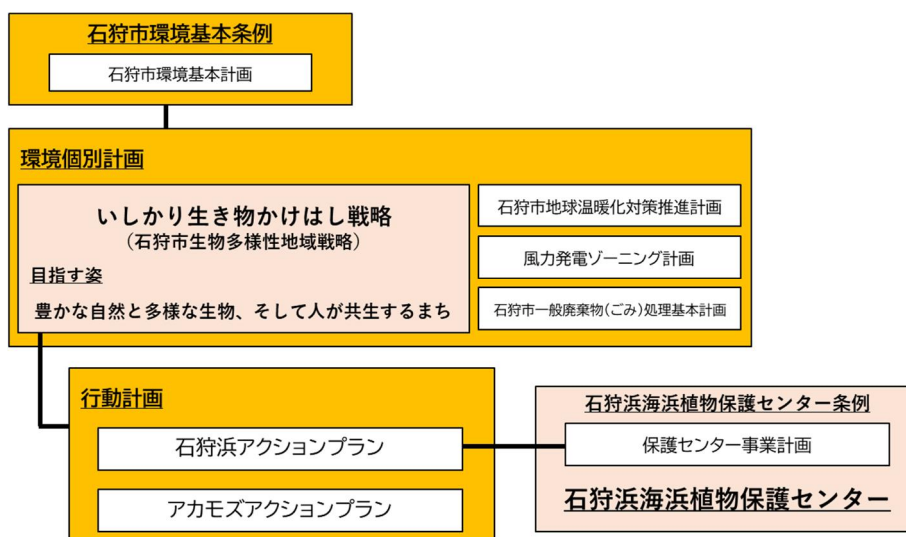
石狩浜海浜植物保護センター

【石狩浜海浜植物保護センターとは】

石狩海岸地域は、海岸砂丘から海岸林まで連続した環境に海浜生態系が残る、全国的にも大変貴重な地域です。しかし、美しい海浜植物や雄大な海浜景観は、レジャーをはじめとする過度な利用により、次第に失われつつありました。近年では、気候変動や外来種の定着などの影響によって本来の成帯構造が失われてきています。このような状況において、豊かな海辺の自然を市民共有の財産として保全し、後世へ残すことを目的に、石狩浜海浜植物保護センター(以下、「保護センター」)は平成12年5月に開設しました。

【事業の位置づけ】

石狩浜海浜植物保護センター条例に基づき、石狩浜に自生する海浜植物の保護等を行い、及び植物を始めとする自然環境の保全に関する意識の普及啓発を目的に事業を実施していきます。事業の方針については、石狩市環境基本計画に基づく生物多様性の保全方針である「いしかり生き物かけはし戦略」や、石狩浜の自然を保全するための行動計画「石狩浜アクションプラン」に基づき事業を計画していきます。



出典:いしかり生き物かけはし戦略を基に作成

石狩浜アクションプラン

https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/res/projects/default_project/page/001/005/530/1005530_002.pdf

【事業構成】

	事業項目	事業内容	目指す姿 (石狩浜アクションプラン)
I	自然情報発信・ 体験学習事業	海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図り、石狩浜の保全に関する意識へつなげる。	石狩浜の自然に対する シビックプライド 浸透のための基盤づくり
II	調査・研究・ 保全事業	海浜植物保全に関する生態・生育情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。	データに基づく 保全対策
III	自然資源の 保全・活用事業	海浜植物等保護地区における海浜植物や地形の状況把握、過度なレジャー利用に対する注意喚起、本来の保護地区としての利活用に関する維持管理等を実施する。	自然資源の適正管理と 適正利用

【事業分担】

	事業(大項目)	事業(中項目)	正規職員	非正規職員 (会計年度任用職員)	委託事業者
I	自然情報発信・ 体験学習事業	1. 展示室	○	○	
		2. 観察園	○	○	○
		3. ハマナス再生プロジェクト	○	○	○
		4. 体験プログラム	○		○
		5. 情報発信/連携	○	○	
		6. 調査研究の発信	○		
		7. 来館者のニーズ、意識把握	○	○	
II	調査・研究・保全 事業	1. 現植生・生物相の把握	○		○
		2. 植生管理	○		○
		3. 希少種	○		○
		4. 外来種	○		○
		5. 資料・データの集約・管理	○		○
III	自然資源の 保全・活用事業	1. 保護地区の利用状況把握・監視・維持管理	○	○	
		2. 景観保全による観光資源利用	○	○	
		3. 保護地区のルール of 普及啓発	○	○	

令和8年度事業計画

I.自然情報発信・体験学習事業

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標	具体的な業務内容 評価手法	アクション プラン
1. 展示室				
1-1常設展示の維持 管理	石狩浜の成り立ち、海浜 植物の生態的な特徴、石 狩浜の生態系といった 石狩浜の自然環境保全 の基礎となる情報につ いて展示をすることで、 展示利用から実物の観 察につなぎ、実物を通し た海浜植物や石狩浜へ の興味を喚起する。	調査データを活用 し、動物に関する展 示を増やす。	↗ ・日常業務として、補修、修 繕の有無を点検 ・大項目Ⅱで実施した調査や 他事業で得た成果をもとに 動物情報を活用した展示の 作製 ・引き出しクイズの内容の見 直し、修正	9)-①
1-2.展示室と観察園 の連動した見学		観察園の情報を活発 に発信し、実物の観 察に繋げる。	→ ・日常的に来館者への観察 園 PR ・開花情報の展示の積極的 な更新(目安として5～6月 は週に1回以上) ・観察園マップを使った開花 情報の掲示	
2. 観察園				
2-1. ゾーン別植生 の維持管理	石狩浜で見られる連続 した植生帯を、現地の調 査をもとに展示と連動 するように再現し、来館 者が快適に園内を利用 し実物から学べるように 整える。	自生地データをもと に、ゾーン区分を整 理し、維持管理する。	→ 【再現区】 ・資料1のとおり職員及び 普及員による管理 【見本区】 ・見本以外の除草 【全域】 ・ススキの地上部刈取りによ るリターの調整	9)-①
2-2. 園路およびサイ ンの整備・維持管 理		観察に適した園路・ 木道の維持管理や、 植物名等のサイン表 示の点検・管理・修繕 をする。	→ ・日常業務内で点検・管理 ・季節に応じたサインの追 加、更新 ・害虫等の防除 ・園路の確保	
3. ハマナス再生プロジェクト				
3-1. ハマナス再生 園の整備・維持管理	ハマナスの咲く石狩浜の 風景を未来に残し、ハマ ナスをシンボルに自然と 共生する地域づくりをめ ざす場の拠点として、現 地情報をもとにハマナス を主体とした植生管理 を進める。	再生園の維持管理を 継続し、参加型の除 草作業も前年ベー スで開催し、周知啓発 に努める。	→ ・普及員等による日常的な、 低木類、ススキの除草作業 や移植、苗づくり ・ハマナスの花卉・果実の採 取管理	10)-①
3-2. 普及啓発活動			→ ・共催イベントや参加しやす い除草イベントの開催 ・環境学習や体験プログラ ムの実施	

4. 体験プログラム					
4-1.施設活用型プログラムの実施	石狩浜の海浜植物をはじめとした、石狩浜の生物多様性について知る機会の創出を目的に、保護センター施設を活用した取り組みやすい仕組みづくりと、アクティブラーニングを主体として進める。	引き続き、市内教育機関を中心にプログラムの周知を図り、体験の受け入れをする。	→	・プログラムの積極的な周知 ・プログラムの実施と改善 ・必要に応じた補助教材の作製	9)-②
4-2.施設外プログラムの実施	保護センター以外の会場を対象に、石狩浜や保護センターの取組に関わる関係主体と連携し、普及啓発に努める。	例年どおり市内外の連携した取り組みに参加し、石狩浜の普及啓発を実施する。	→	・連携団体が主催する事業への積極的な参加(CISE ネットワーク/館ネット)	9)-③
4-3.参加プログラムの実施	生物多様性に関わる保全活動(調査・研究等)について、一般の方でも取り組める内容で実施し、石狩浜の自然に興味関心を持つ人を増やす。	調査、保全活動体験イベントをⅢ-3-1の保護区の周知と合わせて1回以上は開催する。	→	・プログラムの企画立案 ・実施、効果の検証 ➡実施回数(参加者数)	
5. 情報発信/連携					
5-1.ホームページ維持管理	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。また、市民の自主的な石狩浜の保全活動につながる情報の発信、活動の展開を図る。	機関誌、市内回覧、SNS などを活用して海浜植物や、生物多様性について広く情報を発信する。	→	・保護センターの機関誌「はまぼうふう」(年3回)の発行 ・回覧板を活用した「いしかり生き物だより」(5回程度)の発行* ・Instagram を活用した情報発信(いしかり生きものニュース)* *自然保護課事業	9)-②、③
5-2.情報誌の発行					
5-3.近隣施設での情報案内					
6. 調査研究の発信					
6-1. 調査研究報告、学習報告等の掲示	石狩浜の自然に関わる、研究機関や教育機関等による研究や取組について紹介することで、より深い活動について知る機会を創出。	石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果等について、年3事業以上を目標に掲示する。	→	・調査者へ展示依頼及び、展示物の作成	9)-③
7. 来館者のニーズ、意識把握					
7-1. 来館者からの意見収集	来館者の啓発状況及び、理解度について確認し、必要に応じて、展示等の改善を図る。	アンケートを用いて、理解度を把握する。	→	・はまなすフェスティバル及び石狩さけまつりの来館者に対してアンケート実施	9)-①

Ⅱ.データに基づく保全対策の実施

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標		具体的な業務内容	アクションプラン
1. 現植生・生物相の把握					
1-1. 石狩浜モニタリング調査	【植物】 石狩浜の植生遷移や変化を把握、観察園における植生管理の基礎データ等を目的に長期的なデータの蓄積を図る。	見本植生区のモニタリングを継続し、遷移が進む植生帯の状況を把握する。	→	・現地植生調査(7～9月) ・結果のまとめ(11月～)	1)-①
	【動物】 石狩浜を利用する生物種を対象に、その種の動向について自動撮影カメラ等を用いながら随時状況を確認し、対策等に必要情報を収集する。	他の事業で実施している自動撮影カメラのデータをもとに、生息地をマッピングし、生息状況を確認する。	→	・自動撮影カメラ等による生息状況の確認。	1)-②、③
2. 植生管理					
2-1. 聚富海岸植生再生試験(モニタリング調査協力)	聚富地区の保全に関わる植生情報を蓄積する。	道総研と連携・協力し、聚富地区の植生の変化を把握する。	→	・植生調査の実施等	2)-①
2-2. 海浜植生の維持管理手法の蓄積(海岸草原保全手法の検討)	現地調査データを参考に、海浜植生の効率的な維持管理を模索し、保全管理に関わる知見や技術を蓄積する。	季節や現状に合わせて、観察園及び再生園内の調査区データと自生地を比較し、ゾーンに必要な管理手法を検証する。	→	【ハマナス再生園】 海岸草原種の移植によるチガヤの防除効果を引き続き経過観察 【観察園】 資料1にある手法を検証するために調査区の経過観察	2)-②
3. 希少種					
3-1. 希少種イソスミレの生育状況の把握	希少種イソスミレの生育地について、地理情報及び植生構成を押さえ、環境変化に左右されやすいイソスミレの保全対策に繋げる。	モニタリングの継続と、保全対策を行う区画を増やす。	↗	・株サイズ、開花、結実状況を5～6月に調査 ・前年度実施した4区画と、必要に応じて新規区画を対象に内陸性植物の刈り取りを9月に実施	4)-②
3-2. ハマボウフウの生育状況の把握	保護地区内外のハマボウフウの生育状況の比較と継続的な採取圧による生育への影響を把握し、今後の自然ふれあい地区におけるハマボウフウの科学的データに基づいた持続可能な資源利用への根拠データとする。	ライン調査を用いて生育状況を把握し、採取状況について監視員と情報共有し、データを蓄積する。	↗	・2地点以上でライン上の株数や結実等を記録 ・採取状況の把握 ※2～3年に1度実施	4)-①

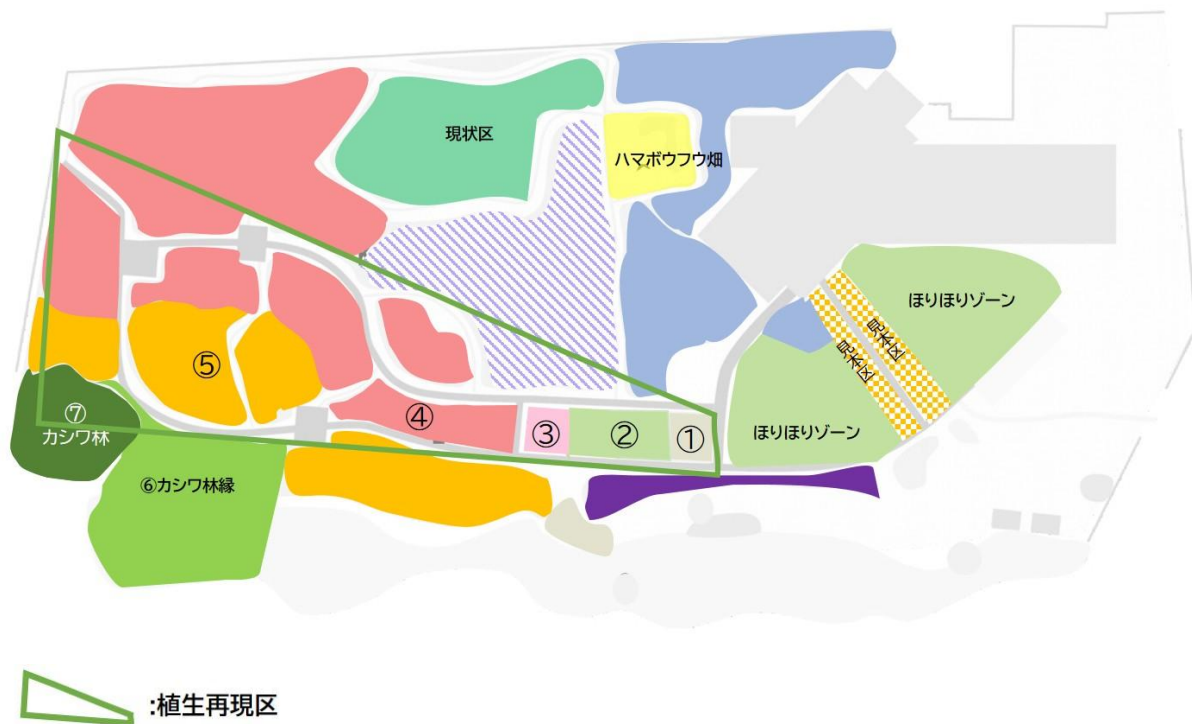
3-3.その他	環境省及び北海道のレッドリストに記載されている希少種、及び石狩浜の海浜生態系において確認されている希少種および個体数・限定的な分布等から留意が必要な種について、生育・分布情報をモニタリングし、対策に繋げる。	エゾチドリの生育、開花状況を確認し、アクションプラン記載種の中で3年以上情報取得できていない種について数種類選定し、位置情報を取得する。	→	【エゾチドリ】 ・6月(開花時期)に、花茎の位置情報及び生育を確認 【その他】 ・位置情報の取得	4)-①
4.外来種					
4-1. 現状の把握	石狩浜の生物多様性保全のために、外来種の早期発見と防除の実施を検討する。	他の事業での調査結果から、防除が必要な種が発見された場合に対応する。	→	・2-1-1同様にデータを蓄積	3)-①、③、④
5. 資料・データの集約・管理					
5-1.標本の管理	地域資料の適切な保管と、保存に係る知識や情報の蓄積をする。	日常の温湿度管理をし、年に1度内容の確認をする。	→	・日常的な温湿度管理 ・防虫剤による害虫対策	9)-②
5-2. 自然情報の収集・管理	環境調査、モニタリング、その他石狩浜に関わる調査研究の報告書などのデータを一括管理し、保全及び情報発信のデータベースとして構築する。	WEBサイトを活用し、石狩浜の情報の一本化と、センターの発信を進める。	→	・センターの展示をWEBサイトで一部公開	5)-①、②、③

Ⅲ.自然資源の適正管理と適正利用

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標		具体的な業務内容	アクション プラン
1. 保護地区の利用状況把握・監視・維持管理					
1-1.車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	条例に基づき、海浜植物等保護地区内の海浜植物等を保全するための維持管理をする。	監視員の情報(日報、月報)をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度実践する。	→	・監視員の配置 ・現状の保護地区の監視、車両侵入への対応、ロープの補修等を実施 ・柵の維持管理 ・管理者との情報共有	8)-①、②、③、④
1-2.単管柵の維持管理			→		
2. 景観保全による観光資源利用					
2-1.はまなすの丘公園木道周辺の植生維持管理	海浜植生の維持と、観光地の景観保全を目的にした植生管理を図る。	はまなすの丘公園の木道周辺で、ススキ・アキグミ・ニセアカシアを防除し、海浜草原の景観維持をする。	→	・監視員による実施	7)-①
3. 保護地区のルールの普及啓発					
3-1. 体験プログラムを通じた自生地保全の普及啓発	自然とのふれあいを通じて、保護地区や石狩浜の自然に関する普及啓発を図る。	保護地区の普及啓発を含めたイベントを年に1回、アンケートは1回以上実施する。	→	・Ⅰ-4-1、Ⅰ-4-3のプログラムと合わせたイベントの実施 ・アンケートの実施	9)-①、②

【資料1】観察園のゾーン分け



No	自然状態	主な構成種
①	後浜～浜崖下・不安定帯	オカヒジキ、ハマヒルガオ、ハマニガナ
②	第一砂丘尾根～斜面・～後背平坦地の植生・半安定帯	コウボウムギ、ハマヒルガオ、テンキグサ、ハマボウフウ、ウンラン ハマハタザオ、イソスミレ、ハマエンドウ
③	第一砂丘後背平坦地の植生・安定帯	ハマナス・ハマエンドウの混生
④	第一砂丘後背平坦地の植生・安定帯	エゾノカワラマツバ、エゾカワラナデシコ、ミヤマアキノキリンソウ、オオヤマフスマ、エゾスカシユリ、ノコギリソウ、ハマナスなど蔓性種除く多種の混生(ヒロハクサフジ・ツルウメモドキ少)
⑤	第一砂丘後背平坦地～第二砂丘の植生・安定帯	エゾカワラナデシコ、エゾスカシユリ、ノコギリソウ、ハマナス、ヒロハクサフジ、ツルウメモドキなど高茎種と蔓性種の混生
⑥	カシワ林縁	ススキ、アキグミ、ツルウメモドキ、ヒロハクサフジ、キンギンボク、ミヤマイボタ、コマユミ、カシワ、ハマナス、アマニュウ、エゾルリトラノオ
⑦	カシワ林	カシワ、マユミ、クルマバソウ、マイヅルソウ

ゾーン	作業内容
①	春:移植(オカヒジキ) 秋:リター除去、砂の掘起こし、砂かけ 通年:コウボウシバ、海浜植物の間引き、内陸性植物の除草※
②	春:苗の移植(ウンラン)、海浜植物全刈り 秋:リター除去、砂かけ、移植(イソスミレ、ハマハタザオ)、 通年:密度の高い海浜植物の間引き、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
③	夏:ハマナス開花後の剪定 秋:ハマナス全刈り、リター除去 通年:密度の高い海浜植物の間引き、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
④	春:ハマナス枯枝剪定 夏:ヒロハクサフジ除草 秋:ハマナス枯枝剪定 通年:内陸性植物の除草※※
⑤	春:ハマナス枯枝剪定 夏:ヒロハクサフジ間引き(ハマナス被圧の場合) 通年:内陸性植物の除草※※
⑥	夏:ヒロハクサフジ間引き(低木被圧の場合) 秋:ススキ、アキグミの刈取り 通年:カシワの稚樹周辺の除草、ススキの適度な刈取り
⑦	通年:外来種の除草、

※:スギナ、メヒシバ、ナガハグサ、ヒメスイバ、チガヤなど

※※:ススキ、ナガハグサ、ヒメスイバ、ヘラオオバコ、カモガヤ、ホソムギ、ブタナ、オオアワダチソウ、ユウゼンギク、イワミツバ、ツルニチニチソウなど